

1 研究の概要

(1) 研究主題

自分のよさを積極的に発揮しながら，協力してよりよい生活を創っていこうとする
子どもの育成 ～思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫～

(2) 研究主題設定の理由

本校は，平成 20 年度に 3 校が統合して開校し，児童・職員合わせて 540 人が在籍する中規模校である。地域の祭りや伝統を大切に思っている児童が多く，様々なことに興味や関心をもつことができるといふ長所が見られる半面，自分で考え判断して行動したり，目標を立て見通しをもって取り組んだりすることには，課題が見られる。また，自分を通そうとする思いが強く，好ましい人間関係を築けない児童，生活習慣の乱れから学校生活にしっかりと向かうことができない児童，規範意識や集団の一員としての役割や責任を果たそうとする意識が低い児童も少なくない。

そこで，児童が学級の友達と協力して活動したり，学年や学級を超えた様々な集団の中で，試行錯誤しながら進んで活動したり経験を積んだりすることにより，集団の一員としての自覚や自己の生き方についてのよりよい認識を深めさせたい。また特別活動の充実により，諸問題を解決しながら協力して生活しようとする自主的，実践的な態度が身に付き，各教科等における学力の向上へとつながることを目指して，この主題を設定した。

本校の特別活動「研究の特徴」

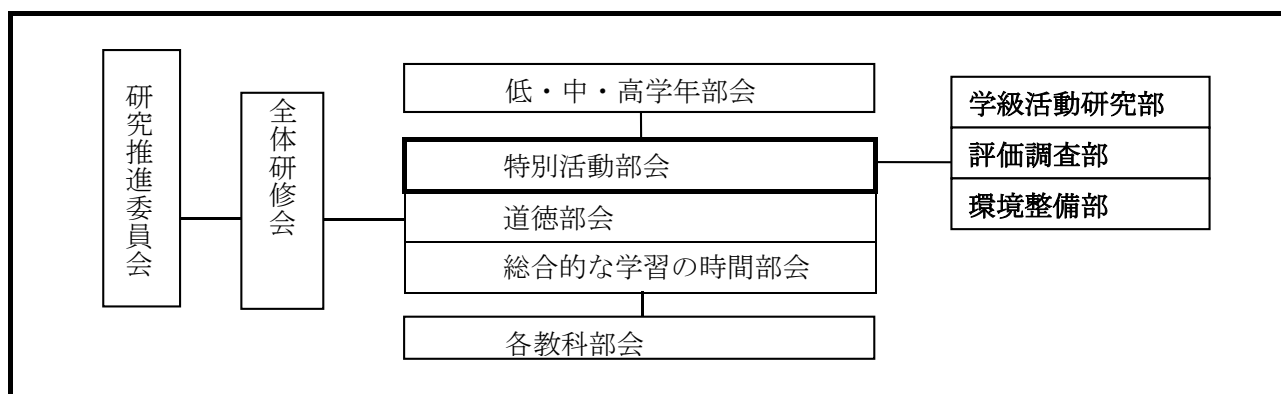
諸問題を解決しながら 楽しく 協力して 生活しようとする自主的，実践的な態度を身に付けられるようにする。

よりよい生活や人間関係づくりを目指す

話し合い活動の充実

合意形成に必要な
思考力・判断力・実践力を育てる
指導と評価の在り方

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none">・研究テーマ，学級目標の設定・話し合い活動における，低・中・高学年の指導計画作成・児童会活動の組織，委員会活動の活動内容等の計画・年間指導計画の見直しとその適切な活用・話し合い活動における合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫と評価についての共通理解・授業研究会を通して研究の課題の整理・研究の成果を検証と，課題に基づいての次年度の方向性の明確化
----------------	--

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

①学級目標設定の仕方の工夫

学級活動（2）の内容で，教師が1年間を見通した目指す学級像を明確にし，児童の願いを生かしながら学級目標を設定する。

②教室環境の整備

③話し合い活動の充実

国立教育政策研究所発行の指導資料を活用し，理論を学び，全教職員で共有理解を図る。

④年間指導計画の見直しと適切な活用

学級ごとに，年間指導計画を作成し，運用しながらよりよいものを目指す。

⑤低・中・高学年の話し合い活動における，合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の在り方について

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 特別活動】（国立教育政策研究所）を参照しながら，低・中・高の「話し合い活動」指導のねらい・評価規準を作成する。

⑥自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫

学級活動（２）の授業を展開の基本形にそって進め、解決方法を話し合っ考える活動や板書を工夫して、具体的に個人目標を自己決定できるようにする。

- ⑦児童会の一員としての役割や諸問題を解決する方法などについて考え、判断し、協同して実践できる力を付ける児童会活動（委員会活動）の改善
委員会活動で活用する評価カードを工夫する。

（２）具体的な研究活動

① 学級目標設定の仕方の工夫

研究部より学級目標づくりの基本姿勢と手立てを提示し、学級作りの指標となる学級目標を児童とともに作成した。教師の明確な学級経営の方針を示した上で、教師の適切な指導の下に、グループ、係、当番等、学級組織づくりを行い、仲よく協力していこうとする自発的自治的な態度を啓発するようにした。

学級目標づくりについて

学級目標づくりの基本姿勢と手立て

<学級目標> 「こんな学級だったらいいな」「こんな学級にしたい」
……という“子どもたちの思いや願い”から子どもと一緒につくる。

(注) ～ができないから、～が悪いから、というマイナスからのスタートにしない。

- ◆学年で目標の意味づけを共通理解して進めることが大事。

学校経営目標 → 学年経営目標 → 学級経営目標



児童会テーマ ← 学年目標 ← 学級目標

- ◆学級目標は（２）の内容で扱う

学級目標は、あくまでも教師の指導のもとであるが、子どもたちの思いや願いが前面に出るようにして学級全体で作り上げる。

- ◆決定のプロセスを大事に

～次のような手順で～

ステップ１：一人一人が「こんな学級になったらいいな」という願いを、自由に出し合う。
ステップ２：いくつかの願いに集約する。
ステップ３：キーワードにまとめ文案をつくる。
ステップ４：文案を全体で検討し、学級目標として決定する。

これによって一人一人が「自分の思いが入っている」と感じることができる。

*集約したりキーワードで表したりするところは、実行委員会などの作業にする。

教師も一緒にワイワイやりながら「特活のやり方」で意向を反映させ、文にしていく。

- ◆教師の学級に対する思いを発信

学級目標づくりまでの間に、教師の担任としての思い（こんな学級をつくりたい・こんな学級であってほしい）を様々な場面で意図的にさり気なく（時には熱く）発信しておく。

② 教室環境の整備（環境整備部の提案で全学級統一）

教室に、「学級会コーナー」や「学級の歩み」（学級会の記録や活動のふりかえり）を掲示することで、児童がよりよい学級作りや学級会にしようとする意欲の向上を図るようにした。

- ・「学級会コーナー」の掲示

教室前の柱 → 話し合う日 議題 提案理由 決まっていること 話し合いのめあて 話し合うこと

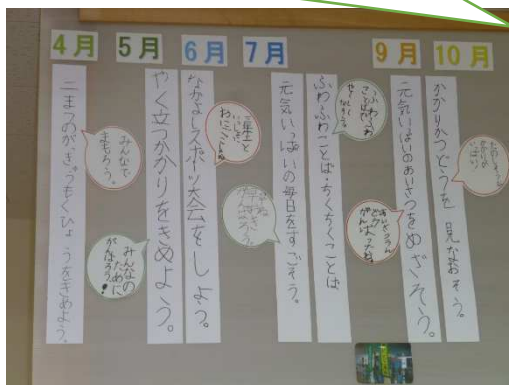
柱横の掲示板 → 計画委員のメンバー 学級会の記録

学級会の予定を書き込み。活動の見通しや意欲を高める。



- ・「学級の歩み」の掲示 → 学級会や学級集会の記録等

「ふりかえり」も掲示し、感動したことや学んだことを学級全体で共有化。



活動の積み重ねを掲示することで、学級としての意識が高まり、活動の活性化につなげる。

・「係活動コーナー」の掲示

学年色のラシヤ紙の上に係の計画や係からのお願いなどを貼る。全学級が同じ場所に掲示することで、児童の情報交換も可能に。



③ 話し合い活動の充実

話し合いの進め方として、環境整備部で計画委員のための角館小学校「学級会の進め方」を作成し、研修で模擬授業を行い、共通理解を図った。児童の自尊感情や自己有用感を高めるための指導・支援についても協議を行った。

学級活動研究部が「学級活動ノート」の原案を作成した。夏休み後には、学級会の前に児童が自分の意見を書いておくところから、集会等の実践の場面で活動のふりかえりを書くまで一連の活動について記録できるように「学級活動ノート」の見直しを行った。児童一人一人がクリアケースやファイルに保管しておき、活動のポートフォリオ評価としても活用していきたい。

また、「出し合う→比べ合う→まとめる（決める）」の話し合いの流れがわかり、児童の思考の可視化・操作化・構造化につながるような板書を計画するようにした。教師による模擬授業で話し合いの流れを確認し、国立教育政策研究所発行の指導資料にある板書の例を参考に、児童が見通しをもって話し合いを進め、時間内に決めることができるようにした。

角館小学校の学級会の進め方
 ♥ 落ち着いて、大きな声で進めよう ♥

1. はじめのことは	これから、第()回()会議を始めます。
2. 役割しようかい	<ul style="list-style-type: none"> 司会の () です。 副司会の () です。 黒板記録の () です。 ノート記録の () です。 よろしく お願いします。
3. 議題	今日の議題は () です。
4. 提案理由	提案理由を提案者の () さんに 言ってもらいます。 (大事なところに赤線を引いて読む (先生がつけたしする時もある))
5. 話し合いのめあて	話し合いのめあては () です。 ・みんなで言いましょう。
6. 話し合い	話し合いをはじめます。 ・はじめに () について、 次に () について話し合います。 ・話し合う時間は () までです。
話し合う	最初は(次は)、() についてです。 ・よい考えを出してください。 ●考えが出ないとき ・グループで () 分、話し合ってください。

比べ合う	・似ている考えを整理します。 ・合体できる考えはありませんか。 ・それぞれの考えに、賛成や反対の意見を言ってください。 ・理由もつけてお願いします。
まとめる(決める)	・() という考えに賛成が多いので、これに決めてもいいですか？ ・() と () と () に賛成が多く出ています。この中から決めます。この () つについて、もっと意見を言ってください。 ・意見がどうしても分かれてしまうので、多数決で決めてもいいですか？ ●時間がなくなりましたので、時間になりましたので、ここで話し合いをおわります。 <先生と相談> ・続きは () とします。
7. 決まったこと	決まったことをノート記録の () さんに言ってもらいます。
8. 先生のお話	先生、今日の話し合いについて、お話ししてください。
9. ふりかえり	今日の話し合いのふりかえりを記入してください。 ・記入時間は、() 分です。
10. おわりのことは	これで、第()回()会議をおわります。

第17回 学級活動ノート 8月26日(水)3校時

名前 []

議題	さわやかドッジボール大会をしよう。
提案理由	4松のみんなは遊ぶことが大好きです。前にバスケボール大会をしました。最初はめまましたが2回目はみんなが楽しくてできた。休み時間も残り時間が少ないのでなにか遊べるようにしました。ドッジボール大会はみんなが楽しめると、1回アみんなが楽しめるドッジボール大会にしたいと思います。校舎裏の空き地を貸して使おう。
決まっていること	①9月1日(火) 5時時間用による。 ②チーム2つ ③場所は体育館
司会	司会 [] 黒板記録 [] ノート記録 []
グループ	[] [] [] [] [] []
話し合うこと	自分の意見(理由もしっかり書こう。)
(1) みんなが楽しめるチーム分け	(意見) ドッジボールがとくいな人を筆頭に分ける。(くじ引き) (理由) チーム力が同じ位になるから。
(2) なかなか遊ぶ4人ボール	(意見) 一人2回はボールを持つ。 (理由) ボールをさわれない人がいるかもしれないから。

意見 ふ、活ドッジがいいと思います。
 理由 たくさん遊べるから楽しい

<話し合いをふり返りましょう>

名前 []

☆話し合いのめあてを考えて、話し合うことができましたか。	よくできた できた もう少し
☆友達の良いところを考えながら、聞くことができましたか。	よくできた できた もう少し
☆自分の意見を進んで発表できましたか。	よくできた できた もう少し
☆理由をはっきりさせて分かりやすく話したり、いろいろな意見を聞いて公平に考えたりして、話し合うことができましたか。	よくできた できた もう少し
☆自分ががんばったことや友だちのよかったところ、決まったことについてがんばりたいことなどを書きましょう。	

意見を3回以上できたのでよかったです。今までよりもたくさん考えたので、本番が楽しみです。
 みんなの意見を公平に考えられたのでよかったです。

ふりかえりカード 平成27年 9月 日

4年 松組 名前 []

自分のめあて 笑顔で協力して、できるだけ、いばい役ける
 <集会をふり返りましょう>

☆学級目標や自分のめあてにそって取り組みましたか。	よくできた できた もう少し
☆自分の役わりを進んでできましたか。	よくできた できた もう少し
☆友達と協力合して、楽しく活動することができましたか。	よくできた できた もう少し
☆自分ががんばったことや友だちのよかったところ、この次に生かしたいことなどを書きましょう。	

たくさんの人に当てられたし、たくさんの人にボールを回せたのでよかったです。最後に、Aグループの王様を当てることができましたので、よかったです。

④ 年間指導計画の見直しと適切な活用

学級活動研究部が年間指導計画の原案を提示し、それをもとに学級ごとに学級活動の年間指導計画を作成した。学級目標と学級経営目標、(1)の予想される議題例、(2)のねらい<学年統一>を明記した。(2)のア～キを発達の段階を考慮し、配当時間の見直しを行った。

⑤ 低・中・高学年の話合い活動における、合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の在り方

指導については、学級活動ノートへの意見の事前記入、話合いの視点の明確化、学級目標を意識しての話合い、視点を明確にした板書の工夫、低・中・高学年ごとの話型にそった発言（中・高学年は自分の言葉で）、ペア・グループでの話合いを取り入れることを共通理解のもと、実践してきた。

評価に関わっては、低・中・高学年ごとに、「話合い活動」指導のねらい・評価規準を作成した。これを基に、授業では、目指す児童の姿を具体的にイメージして指導できるようにしたいと考えている。また、これに基づき、評価調査部で質問紙とチェックシートを作成した。6月に、児童へは質問紙で、教師には、チェックシートで実態を把握するアンケートを実施した。その結果、児童が感じる課題としては「話す力」、教師が課題として感じているのは、「話し合う力」であることが明確となった。

学年	指導のねらい	評 価 規 準			
		集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活につ いての知識・理解	
低学年 仲良く助け合い学級生活を楽しくする	計画 ○教師の助けを得ながら、話し合い活動の準備ができるようにする。 ○学級活動ノートに自分の考えを記入するなど、話し合いの準備ができるようにする。	話し合いの基本が分かる ・学級生活に関心をもち、話し合いの準備に進んで取り組もうとしている。	・議題について自分の考えをもち、話し合いの順序など簡単な計画について考え、準備している。	・話し合い活動の準備の仕方や基本的な進め方を理解している。	
	話し合い 「学級生活を楽しくするための集団決定」 =友達の意見をよく聞いたり、約束に従って自分の意見を言うようにしたりして学級生活を楽しくするために集団決定ができるようにする。 ○教師が進行等の役割を受け持つことから始め、少しずつ児童がその役割を担うことができるようにする。 ○学級生活を楽しくするために、友達の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりして、話し合いを進めることができるようにする。		・司会や記録の仕事、話し合いに進んで取り組もうとしている。	・よりよい学級の生活づくりに向けて考え、判断し、話し合っている。 ・それぞれの意見を合わせて話し合っている。	・司会や記録の仕方の役割や基本的な話し合いの進め方、集団決定の仕方を理解している。
	実践 ○決定したことについて仲良く実践することができるようにする。 ○教師と一緒に準備をしたり、計画を立てたりして活動できるようにする。		・決定したことについて、進んで準備や計画に取り組もうとしている。	・決定したことや役割を考え、仲良く実践している。	・決定したことについて、みんな実践することの大切さや方法について理解している。

(低学年用)

学びゅう活どうについてのしつ問

年 組 番 名前

つぎのしつ問について、自分にあてはまると思う番ごうに○をつけてください。

☆…強くそう思う ◎…そう思う
○…あまり思わない △…そう思わない

①	ともだちの話やいけんをさいごまで聞いていますか。	☆ ◎ ○ △
②	じぶんのかんがえをもち、はっぴょうしていますか。	☆ ◎ ○ △
③	じぶんのいけんにこだわらないで、みんなのことをかんがえて、よりよいけっていにしようと、話合いにさんかしていますか。	☆ ◎ ○ △
④	学びゅう会でできたことや、じぶんのやくわりにとりくんでいますか。	☆ ◎ ○ △
⑤	ともだちとなかよくかつどうしていますか。	☆ ◎ ○ △

(中学年用)

学級活動についてのしつ問

年 組 番 名前

次のしつ問について、自分に当てはまると思う番号に、○をつけてください。

☆…強くそう思う ◎…そう思う
○…あまり思わない △…そう思わない

①	じぶんの考えと比べながら、友だちの話や意見を聞いていますか。	☆ ◎ ○ △
②	りゆうをはっきりさせて、自分の意見を発表していますか。	☆ ◎ ○ △
③	それぞれの意見を合わせたり、いくつかの意見のよいところを取り入れたりしながら新しい考えをつくったりして、話し合っていますか。	☆ ◎ ○ △
④	学級会で決まったこと、自分や友だちのやくわりを考えて、取り組んでいますか。	☆ ◎ ○ △
⑤	友だちときょうりょくし合い、くふうして活どうしていますか。	☆ ◎ ○ △

※ 高学年用は、省略

「よりよい生活や人間関係を築く力」を見とるためのチェックシート

◇児童の様子について、あてはまると思うものに○をつけてください。

4…強く思う 3…そう思う 2…あまり思わない 1…そう思わない

【低学年】 仲良く助け合い学級生活を楽しくする

1	友だちの話や意見を最後まで聞いている。	4	3	2	1
2	自分の考えをもち、進んで発表している。	4	3	2	1
3	学級生活を楽しくするために、よりよい決定をしようと話し合いに参加している。	4	3	2	1
4	学級会で決定したことや自分の役割に取り組んでいる。	4	3	2	1
5	友だちと仲良く活動している。	4	3	2	1

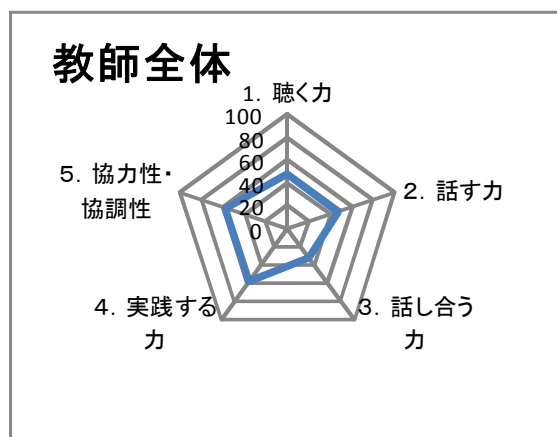
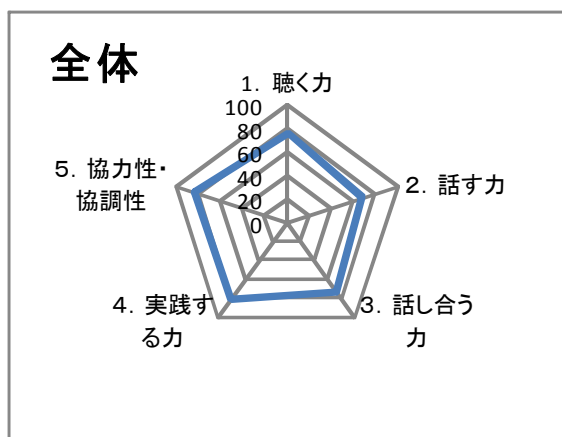
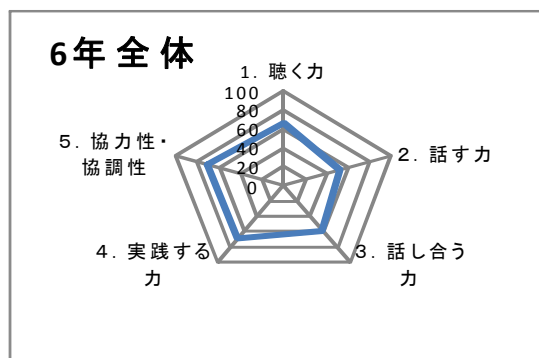
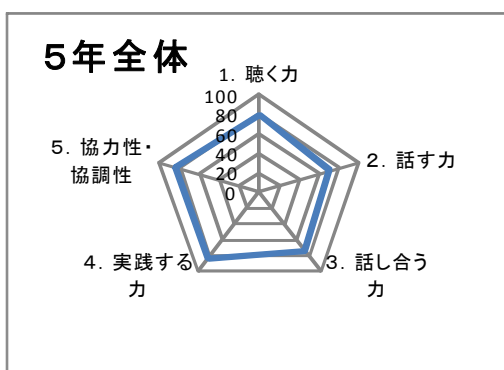
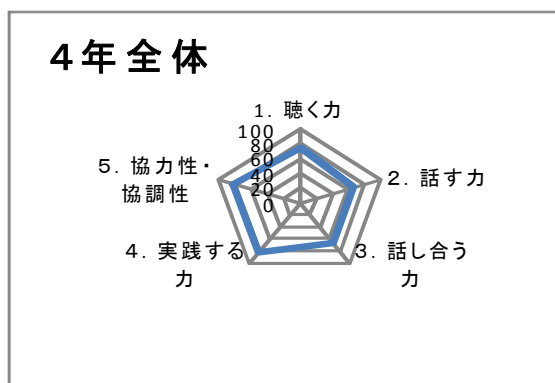
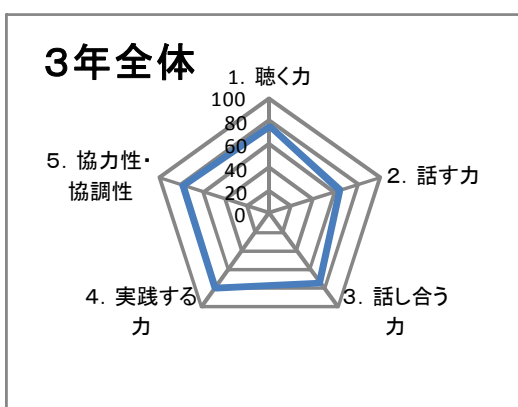
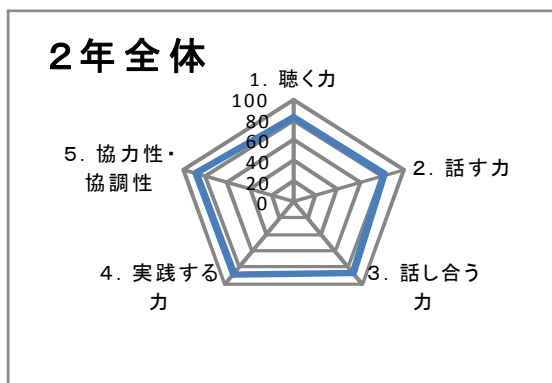
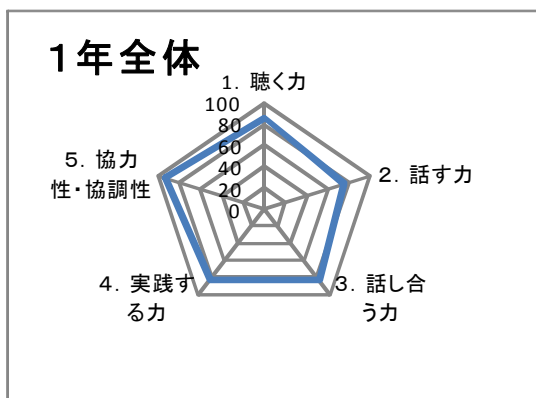
【中学年】 協力し合って楽しい学級生活をつくる

1	自分の考えと比べながら友だちの話や意見を聞いている。	4	3	2	1
2	理由を明確にして自分の意見を発表している。	4	3	2	1
3	それぞれの意見を合わせたり、いくつかの意見のよいところを取り入れながら新しい考えをつくったりして、よりよい決定をしようと折り合いをつけて話し合っている。	4	3	2	1
4	学級会で決定したことに進んで参加したり取り組んだりしている。	4	3	2	1
5	友だちと協力し合い、工夫して活動している。	4	3	2	1

【高学年】 信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校生活をつくる

1	友だちの話や意見のよさを見つけながら聞いている。	4	3	2	1
2	友だちの意見を尊重しながら、自分の言葉で進んで発表している。	4	3	2	1
3	少数意見の生かし方や反対意見の改善策を考えながら、よりよい集団決定をしようと、建設的に話し合っている。	4	3	2	1
4	自他の役割を考え、創意工夫しながら取り組んでいる。	4	3	2	1
5	友だちと話し合い、信頼し支え合って活動している。	4	3	2	1

※ 教師用



「強くそう思う」を3点、「そう思う」を2点、「あまり思わない」を1点、「そう思わない」を0点と数値化し、各項目についての割合を表したのが上のグラフである。

【傾向】

児童の意識として、「実践する力」「協力性・協調性」は80%以上と高い。「聴く力」「話す力」「話し合う力」については、他の項目と比較して低くなっている。特に、「話す力」においては67.6%と低い。内訳を見てみると、肯定的な意見（「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合）は、71.7%に対して、否定的な意見（「あまり思わない」「そう思わない」と答えた割合）は28.3%である。3割弱の児童は「話す力」を足りないと感じている。高学年になるほどその傾向は顕著になり、第6学年では、肯定的な意見は49.4%、否定的な意見は50.6%と、肯定的な意見より否定的な意見の方が上回る。半数以上の児童が「話す力」が足りないと感じている。

教師の意識として、50%を上回っているのが「実践する力」「協力性・協調性」、下回っているのが「聴く力」「話す力」「話し合う力」である。その傾向は児童の意識調査と似ている。しかし、レーダーチャートが中心付近に小さくまとまっていることから、全体的に否定的な意見の割合が多い。教師の意識として特徴的なのが、「話し合う力」が35.2%と他の項目の割合にして10%以上落ち込んでいる点である。「聴く力」が48.1%、「話す力」が46.3%であることから、ねらいに迫るような話し合いになるためには、まだまだ力不足であると認識している教師が多いことが推測される。

【対策】

- 「話す力」が足りないと感じている児童に、いかに自信をもたせていくか。
 - ・ 話すことへの抵抗感を少なくするため、学級の雰囲気作りや発問を具体的にする。
 - ・ 学級に掲示している発達段階に応じた話型のより一層の活用を図る。（使い方を具体的に指導、朝の会等で活用）
 - ・ 普段から発表で根拠を言えるような児童に育てる。
- 児童と教師の目指す「話し合う力」には ずれがあるものと考えられるので、そのずれを解消しながら、「話し合う力」を高めることが大切である。
 - ・ 本校が目指している「話し合う力」の具体を児童に伝える。
 - ・ 発達段階に応じた「聞く力」を充実させ、「聴く力」を育ていく。（「聞く」から「聴く」への意識変換）
 - ・ 他教科での言語活動を充実させていく。
 - ・ 必要感・切実感のある話し合いの題材（議題）の設定と、題材（議題）の提示の仕方を工夫する。
 - ・ 話し合いの内容に関する振り返りを充実する。

⑥ 自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫

学級活動（2）の授業は、児童が自ら努力目標を自己決定し、その実現に取り組めるよう展開の基本形にそって進めることで、自己指導能力を育てるよう展開を工夫するようにした。具体的に板書計画を立てたり、教師がティームティーチングで情報を提供したり、みんなで解決に向けて話し合う場を設けたりした。



⑦ 児童会の一員としての役割や諸問題を解決する方法などについて考え、判断し、協同して実践できる力を付ける児童会活動（委員会活動）の改善

委員会活動で活用する評価カードを見直し、ふり返りがしっかり行えるようなカードを作成した。前期のふり返りを生かし、代表委員会での話合いの提案としてつなげることができた。

運営委員会		6年梅組 名前				
活動のめあて		学校の中心となって協力し合い さわやかな笑顔 いっぱいの学校にしよう。				
	☆ よくできた ◎ できた ○ あまりできなかった △ できなかった 活動内容	進んで活動する	協力して活動する	工夫して活動する	活動を提案する	<感想> ・よかったことやがんばったこと ・もう少しがんばりたいこと（常時活動もふり返って）
前期前半	代表委員会を開いて、児童会テーマ、運動会テーマを決めた。あいさつ運動を進める。	☆	☆	☆	○	あいさつ運動をし、かりできてよかったです。
前期後半	・あいさつ運動 ・学習発表会の仕事（案内係） （学習発表会テーマ）原案と代表委員会	☆	◎	◎	◎	学習発表会の仕事や代表委員会は協力してやれたと思います。あいさつ運動はもっと大きな声で明るくやりたいです。
後期前半						
後期後半						
<活動の提案>		<他の委員会活動への提案>				

3 今後の取組

(1) 学級活動のさらなる充実

- ① 話し合い活動のステップアップ
 - (ア) 時間内合意による集団決定のよりよい方法を探る。
 - (イ) 計画委員の準備の指導
 - (ウ) 児童の発言 ～ しっかり挙手して、同じ考えでも自分の言葉で言えるようにする。反対の時は代案を示す。
- ② 板書の工夫 ～ 児童が思考を整理できる板書を構成する。
短冊の色分けやキーワードのみにする等、思考ツールとして整理し、よりわかりやすいようにする工夫する。
- ③ 教室掲示 ～ 実践したことが見える教室環境を整える。
話し合い、集会の積み重ねが見える学級づくりを目指す。
- ④ 年間指導計画 ～ 学級活動(2)の指導を系統図に示す。
実践しながら、年間指導計画に書き足していく。
- ⑤ 学級活動(2)の指導 ～ (1)との指導の違いを明確にし、即実践につながる解決方法を自己決定できるようにさせる。
- ⑥ 係活動の指導～係の種類、創意ある活動内容の工夫、活動の活性化

(2) 児童会（委員会）活動の活性化

- ① 委員会活動の見直し
 - 仕事の内容の検討～・「自分たちの力でよりよい学校生活を創りあげる」という視点で
「どのような仕事を児童に任せられるのか」も検討
 - ・学校生活を維持するための活動と児童の願いや発想が活かされる活動のバランス環境整備～・児童会室の設置
 - ・上級生が下級生に教えながら自分たちで活動できるように
- ② 代表委員会の役割の明確化
 - 代表委員会の年間計画
 - 時間設定（週時程の工夫）